

## モニタリング結果報告書

施設	神奈川県総合リハビリテーションセンター
指定管理者	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団
施設所管課	保健福祉局 企画調整部 病院事業課

(平成23年度 上半期)

### 管理運営状況総括

今期の指定管理者の管理運営状況(1～9の結果を踏まえ、判定してください)

B: 提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。

- A: 提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。  
 B: 提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。  
 C: 提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。  
 D: 提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

#### 1 月例報告によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項)
4月	5月31日	6月20日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
5月	6月30日	7月12日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
6月	7月29日	8月17日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
7月	8月31日	9月14日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
8月	9月30日	10月19日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
9月	10月31日	11月11日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし

#### 2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載する。

##### <提案内容の概要>

##### 1 総合性・高度専門性の発揮

- (1) リハセンターの一体的な運営の推進
- (2) 福祉施設の機能充実
- (3) 病院の機能充実
- (4) 地域支援センター機能の充実
- (5) 研究・開発機能の充実
- (6) 地域の関係機関との連携強化への取組み
- (7) 専門職員の育成

##### 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- (1) 人権擁護と個人情報の保護
- (2) 利用者サービスの向上対策
- (3) 自己評価・第三者評価等の推進
- (4) 安全対策の推進

##### 3 効果的・効率的な運営

- (1) 採算性に配慮した運営
- (2) 収益の確保対策と経費の節減対策

##### <実施状況>

#### 七沢学園

##### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・知的障害児者に対し、病院と連携して難治性てんかんや胃婁等医療的課題のある方の受入や、強度行動障害、発達障害等を持つ方への支援を行ない、行動障害の軽減、環境への適応性の向上に取り組み、地域生活に向けた支援を行なった。
- ・地域生活に向けた取組により、上半期実績として児童は退所者19人中17人(89.5%)が、また成人は退所者11名中7名(63.6%)の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができ、地域生活への移行への支援という役割を果たすことができた。
- ・日中支援機能の充実のため、課題の多いケースには、心理科の協力を得て行なうなど、個人に沿ったプログラムを充実し対応している。
- ・他施設では受け入れが困難な医療重度者の支援に向けた入所支援サービスに取り組んだ。(7名入所)
- ・強度行動障害者への対応は、県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加、訪問調査などに取り組むとともに、神奈川リハ病院と連携しSST手法等を実施している。(SST手法とは、ソーシャルスキルトレーニングの略。知的障害者の社会生活力を高める訓練)(強行9人受入)
- ・発達障害児に対し、神リハ病院心理科と連携したSST手法を用い、発達段階に合わせた支援プログラムを実施している。

- ・知的障害児童に対して、療育期間1ヶ月から6ヶ月とした集中療育の支援プログラムにより、生活リズムの立てなおし、排泄訓練、体重コントロール、身辺処理の自立、コミュニケーションの拡大といった直接的なケアのもの、母子分離、集団適応能力観察、心理評価、行動観察・評価など間接的なケアのもの、レスパイト、一時的な養護性、長期施設待機などの付帯的目的のものや、養育環境の整備、不登校の改善、行動改善を実施している。(延べ利用者数上半期1, 175人)
- ・各児童相談所との連携、家族支援、児童への精神的ケアなど被虐待児への支援を行った。
- ・複合施設ならではの取り組みとして、七沢学園では、23年4月から重度心身障害者の通所利用を初の試みとして開始した。また6月には、更生ライトホーム入所の高次脳機能障害者に対し、日中訓練を七沢学園で行い知的障害者向けプログラムを活用する支援を行ない効果をあげた(「人に慣れる、作業に慣れる」という訓練・評価は知的障害者のサービスが向いている)。更に高次脳機能障害者の家族宿泊についても初の試みとして計画している。
- ・地域のイベントへの参加、実習生、ボランティアの受入れなど地域との連携を図った。

## 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・職場内研修、職場外研修(中央,厚木児童相談所)、派遣交流研修などを実施した。
- ・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)の研修を実施し、予防対策の強化を図った。
- ・金銭管理マニュアル、身体拘束マニュアル、投薬管理マニュアル、無断離棟捜索マニュアル等に基づく適正な対応を行った。
- ・人権擁護対策チームにより、人権擁護の意識向上の為研修、人権チェック等を実施した。
- ・苦情解決への取組みとして毎月第三者委員による個人相談を実施した。
- ・12月に利用者満足度調査を実施する予定である。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

## 3 効果的・効率的な運営

- ・県内養護学校との業務連絡会、保護者会、短期利用制度等を利用して事業PRを行なった。

## 七沢療育園

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重度重複障害児者に対する支援を行なうとともに、人工呼吸器や経静脈栄養法等全身性の管理が必要な医療重度者の受入や、中短期入所による通過型の支援により地域の在宅児者の支援を行なった。
- ・40床のうち10床を中短期入所枠とし、在宅重心児者の在宅生活の継続や課題解決に向けた支援を展開している。地域のニーズは高く、期待される役割は大きい。(上半期延1564人の利用)
- ・超・準超重症心身障害児者の受入については、中期入所を含め月平均では最大16.2床(計画8床)の受入を行ない支援した。在宅からの中短期入所者の低年齢化、医療重度化が進み、バイタルサインを計測するモニターが不足するなど、医療用機器の増設が必要となっている(レンタル等で対応)。また、入所前に地域支援班と看護師が家庭訪問を行い、事前に情報収集、スタッフ間で共有し前もって準備にあたることで、保護者も安心され利用者、スタッフにとっても安心、安全な入所につながっている。
- ・県の委託により重症心身障害児者の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所などを訪問した。(上半期 54回実施)
- ・重心親子教室を実施し、療育相談を行なった。(上半期実績 1回実施)
- ・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会発達支援部会へ参加した。
- ・園内の研修について、看護科・支援課と共同で計画・実施した。

### 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。
- ・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)の研修を実施し、予防対策の強化を図った。
- ・苦情解決への取組みとして、毎月第三者委員による個人相談を実施している。
- ・よりよい施設運営に向けて、自己評価を実施をした。12月に利用者満足度調査を実施する予定である。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

### 3 効果的・効率的な運営

- ・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋げている(上半期 54回 95人)

## 七沢更生ライトホーム

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・病院から直接自宅退院できない頸髄損傷、高次脳機能障害、脳血管障害等による重度の肢体不自由者に対し、病院に引き続き医療的リハビリテーションを行なうとともに、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行なった。上半期退所者 20名(内通所1名) (障害別内訳 脊損4人(内頸損による四肢麻痺2人)、脳外傷1人、脳血管障害11人、脳性麻痺1人、二分脊椎0人、その他神経疾患3人)
- ・疾病等による中途の視覚障害者に対し、感覚訓練、歩行訓練等によるリハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行なった。退所者数 11名(内通所5名)
- ・地域生活に向けた取組により、入所による退所者19名のうち15名(78.9%)の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができた。
- ・また、入院中に住居を失った重度の障害者に対し、地域において単身生活ができるよう支援を行なった。(単身者の地域移行7名)
- ・一貫した医療と福祉サービスの提供に向け、障害別に連続したプログラムに基づいて支援した。

- ・社会生活力向上のため、疾患別、目的別にグループワーク等を利用して多種多様な支援プログラムを提供した。
- ・肢体不自由者に対して、就労自立セミナーや、健康管理に関するセミナーを開催した。
- ・高次脳機能障害への取組みの為、日中訓練、家族懇談会等を実施した。
- ・若年の脳血管障害者や頸髄損傷者への支援を行ない、就労や自立生活へ向けた取組みを行なった。
- ・複合施設ならではの取組みとして、更生ホーム入所の高次脳機能障害者に対し、日中訓練は七沢学園で知的障害者向けのプログラムを活用し支援を行い、効果をあげた。「人に慣れる、作業に慣れる」という訓練・評価は知的障害のサービスの方が向いており、複合施設ならではの取組みで障害のハザマの対応ができた。その後は、5月31日に退所し、現在七沢学園に入所している。更に高次脳機能障害者の七沢学園施設機能を活用しての家族宿泊についても初の試みとして計画している。
- ・視覚障害者の職業の紹介や、福祉機器や盲導犬の活用方法等のセミナーを実施した。
- ・視覚障害者の地域生活の充実のため訪問訓練を実施した。
- ・神奈川リハ病院眼科外来と連携し、ロービジョン(低視覚障害)者の相談・技術支援等を行なった。
- ・地域支援センターの主催する研修に講師として派遣するとともに、各地域の研修に職員を講師として派遣し、連携を図った。
- ・教員・保護者・当事者の見学希望、体験研修、実習等の積極的な受入れを行った。
- ・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会の生活支援部会に職員を派遣し、地域との連携を深めた。
- ・県内の社会福祉協議会や関係団体が主催するボランティア養成講習会等に職員を講師等で派遣した。
- ・職員の育成の為、積極的に福祉施設合同研修、神奈川リハ病院主催研修、施設外研修等に参加させた。

## 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。
- ・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)の研修を実施し、予防対策の強化を図った。
- ・苦情解決への取組みとして毎月第3者委員による個人相談を実施した。
- ・利用者満足度調査を実施した。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

## 3 効果的・効率的な運営

- ・地域医療機関説明会、見学会などを実施し、利用率の向上に努めた。
- ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。
- ・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。
- ・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。
- ・相模原病院の外来通院患者および家族を対象に、国立相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホームの合同で、「生活訓練体験会」の企画立案をした。(11月実施)
- ・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行う企画立案した。(11月実施)
- ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

## 神奈川リハ病院

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・脊髄損傷、外傷性脳損傷(高次脳機能障害)、変形性股関節症(手術を含む)、神経疾患、小児神経疾患等のリハビリテーションを行なうとともに、多診療科による障害者の総合診療・総合医療の提供を行なった。
- ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療のリハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職・復学等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。
- ・退院患者のうちの主な疾患患者数  
脊髄損傷55人(内頸髄損傷による四肢麻痺30人)、高次脳機能障害(117人)、小児神経疾患(38人)、変形性股関節症(128人)、その他(神経難病他)381人)
- ・退院患者のうち87.1%が自宅退院できた。
- ・急性期病院等とのネットワークの強化の為、東海大学医学部付属病院医療連携情報交換会を開催するとともに、相互の医師間の連携(doctor to doctor)によるホットラインによる早期受入を行なった。
- ・高次脳機能障害者、頸髄損傷者に向けた就労支援の取組みを行なうとともに、地域就労支援機関等への助言・支援を行った。
- ・県内医療機関に勤務する理学療法士の卒業臨床教育へ取組んだ。(5人受講) また、理学療法士、作業療法士の専門研修のニーズが非常に高いことから、地域支援センターの専門研修に位置づけPTOT専門研修(全5回コース)として実施した。(24人参加)
- ・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症(術中を含む)、小児脳損傷、脳血管障害にクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。
- ・医師、栄養士、看護師等で構成する栄養サポートチームによる栄養療法、摂食・嚥下障害への対応を実施した。
- ・厚木病院協会地域連携委員会や、県西部MSW連絡会等の近隣医療機関との連絡会、自立支援協議会等に参加し、地域連携に取組んだ。
- ・医療安全管理会議等が企画する病院内の専門研修を企画・実施した。
- ・障害者スポーツ教室(水泳講師)の実施  
県障害者社会参加推進センターの依頼により神奈川リハ病院のプールの活用、講師の派遣を行なった。  
神奈川リハ病院プールを活用して、リハセンターの体育指導員が障害者のスポーツ教室の講師となり、重度身体障害により泳ぐ機会が少ない障害児者に対し、泳げない方々を対象に水に触れて泳ぐことの楽しさを知ってもらうためのアクティビティや泳法の指導を行なった。  
単なる会場の提供ではなく、重度障害者に対する専門的アプローチが必要となるため、一般の水泳コーチでは対応できないものである。(定員20名)

### 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・日本医療機能評価機構の認定病院として、病院機能の向上、患者サービスの向上に向けた取組みを図った。
- ・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。

- ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。  
(苦情・要望に対する対応状況件数 上半期49件)
- ・入院患者満足度調査(11月実施)、外来患者満足度調査(1月下旬～2月上旬実施)に向け企画した。
- ・障害者歯科診療を実施した。(延べ1575件)
- ・禁煙外来による禁煙指導を行った。(禁煙外来延べ患者数 26人)
- ・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。
- ・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った

### 3 効果的・効率的な運営

- ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
  - ① 入院審査会(毎日開催)
  - ② Dr to Drの紹介患者早期受入れ
  - ③ 入院患者確保対策(病院訪問を実施、入院案内・申込書・入院までの目安日を関連病院に郵送)
  - ④ 市町村担当者や近隣病院のケースワーカーへの病院説明会による情報提供の実施
- ・ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。
- ・請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。
- ・医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。
- ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

## 七沢病院

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・生活習慣改善による脳卒中の予防から発症後の回復期にある患者に対するリハビリテーション、さらには退院後の機能低下に対する再訓練を行なうとともに、高次脳機能障害や合併症による重度・重複障害の社会復帰に向けた支援を行なった。
- ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療のリハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。
- ・退院患者のうち78.2%が自宅退院できた。
- ・入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。
- ・医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底が図られた。  
《クリニカルパスの種類》
  - ・脳卒中リハビリテーション・クリニカルパス
  - ・生活習慣改善入院クリニカルパス
- ・生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。(実21人 延752人)
- ・入院時栄養スクリーニングを全患者に実施し、栄養サポートチームにより定期的に病棟回診を行った。
- ・摂食・嚥下障害のある患者に対して、摂食・嚥下障害看護認定看護師と他職種と共に回診し、多角的な視点からアプローチを実施した。
- ・「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。
- ・県内医療機関MSWを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。
- ・脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。
- ・患者の人権擁護等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。
- ・脳卒中地域連携パスの推進として、8つのグループに参加するなどの取組みを行った。

### 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。
- ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。
- ・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、土曜日リハビリテーション訓練を実施した。
- ・リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。
- ・利用者満足度調査は下半期に実施する予定である。自己評価等を実施した。
- ・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。
- ・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った  
(苦情・要望に対する対応状況件数 上半期23件)

### 3 効果的・効率的な運営

- ・毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。
- ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
  - ① 入院審査会(毎日開催)
  - ② Dr to Drの紹介患者早期受入れ
  - ③ 入院患者確保対策(44病院に対して毎週空床情報をFAXで送付等)
- ・脳卒中公開講座の開催により、一般県民向けに脳卒中予防や病院の機能紹介を行なった。
- ・ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。
- ・請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。

- ・医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。
- ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

## その他

### 1 総合性・高度専門性の発揮

#### 地域支援センター機能の充実

- ・リハセンターがこれまで培った技術・知識を地域に還元し地域リハ推進を支援するため、専門職種に対する研修、専門相談、情報の提供を行なうとともに、必要に応じて地域の個別困難事例に地域のスタッフとともに取り組んだ。  
(上半期実績 相談件数245件、研修11項目 15日間 延682人受講)
- ・県の高次脳機能障害支援拠点として、支援方法の普及、地域連携支援を行なうとともに、県単事業として巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。
- ・上半期実績 個別新規相談件数131件 延べ対応相談件数1384件、巡回相談(拠点施設での相談支援) 横須賀三浦地区14件、湘南東部地区33件)
- ・アウトリーチ支援については、昨年度は年間86件だったのに対して今年度は上半期で82件となっており、ニーズの増加に対応し取り組んだ。(アウトリーチ支援:相談依頼内容により、直接、施設・個人宅に訪問する必要がある支援)
- ・秦野市を対象にモデル事業を行い、支援技術の均てん化を図るとともに、市町村の専門人材の育成・連携支援を行なった。
- ・新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。
  - ・新規研修として、知的障害者のリハビリテーション(身体編)を企画した。知的障害者の高齢化に伴う身体援助の方法等を行なう。県内で唯一身体障害施設と知的障害施設を併せ持つ、リハセンターとしての技術・知識の提供を行なう。12月14日に実施予定
  - ・脳卒中のリハビリテーションについては、多職種を対象とする従来の2日間コースから、研修内容を細分化し理解編、実務編、装具編の全3コースとした。
  - ・神経難病を対象にした地域リハ推進研修を茅ヶ崎保健所に7月に実施した。地域包括支援の研修、相談支援者のためのリハビリテーションなど、地域のニーズに沿った新規研修も今後実施する予定となっている。
- ・ホームページや「地域支援センターだより(広報誌)」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。
- ・一般県民等に向けたフォーラムについては今後開催予定である。

### 1 総合性・高度専門性の発揮

#### 研究・開発機能の充実

- ・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している

#### 【研究テーマ】

- (1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究
- (2) 障害者に関する福祉学・医学的研究
- (3) 障害児者に関する計測的・工学的研究
- (4) 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究
- (5) 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究
- (6) 障害児者の生活の質に関する研究

#### 【他大学等との連携した研究】

- 東海大学工学部 曲谷研究室  
「表面筋電図の分析と義肢制御への応用に関する研究」
- 近畿大学理工学部社会環境工学科(大阪府)(新規)  
「高齢者・肢体不自由児者の歩行容易性を考慮した室内用視覚障害者誘導ブロックの開発研究」

#### 【各種委員会における共同研究等】

市町村等からの依頼に基づき各種委員会に参加し、福祉の町づくり、福祉用具等の安全基準作成、交通バリアフリーに関する調査研究を行なった。

- 平成23年度国際標準共同開発事業への協力
  - ・車いす座位変換機能国際標準開発分科会への委員参加
- 平成23年度車いす付属品開発事業への協力
  - ・車いす付属品(プレーキ・クッション・テーブル) JIS開発委員会への委員参加
  - ・シルバーカーJIS開発委員会への委員参加

#### 【学会発表(23年度の主な実績)】

<障害医学関係～電気生理学的研究 主な学会発表>

・33rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in medicine and Biology society (EMBC'11)(第33回 生体医用工学国際学術大会)。(9月 アメリカ合衆国マサチューセッツ州 ポストン)

「Basic study on Combined Motion Estimation Using Multichannel Surface EMG Signals」(表面筋電図による複合動作認識のための基礎的検討)

・第12回 計測自動制御学会。(12月 京都市)

「SEMGを用いた動作認識における自由度向上のための基礎的検討」

<リハ工学関係～歩行分析にかかる研究 主な学会発表>

・日本めまい平衡医学会学術大会(11月 千葉市)

「神奈川リハビリテーション病院耳鼻咽喉科における平衡機能障害に対するリハビリテーションの総括」 (耳鼻咽喉科医との共同研究)

「平衡機能障害と動揺視を来たした延髄外側症候群に対するリハビリテーション」 (眼科医との共同研究)

<リハ工学関係～車いす開発に関する研究 主な学会発表>

- ・第26回リハ工学カンファレンス (8月)  
「新型電動スタンドアップ車椅子の開発」
- ・第37回日本重症心身障害学術集会 (9月)  
「長期入院児童への就学支援」  
※ 理学療法士、小児科医との共同研究

3 収支状況 (単位:千円) 注:千円未満を切り捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額	
	合 計	指定管理料	利用料金			その他収入
年間予算額						
今期 (前期)	11,366,633 (11,143,615)	4,777,745 (4,904,949)	6,536,241 (6,181,979)	52,647 (56,687)	11,366,633 (11,143,615)	0 (0)
上(下)半期 予算額	5,144,413	2,231,420	2,886,668	26,325	5,144,413	0
4 月	838,729	314,236	522,522	1,971	803,557	35,172
5 月	759,428	244,558	513,640	1,230	714,223	45,205
6 月	1,444,752	901,550	535,237	7,965	1,341,844	102,908
7 月	742,572	229,434	511,267	1,871	802,897	△ 60,325
8 月	841,084	312,689	525,960	2,435	775,311	65,773
9 月	729,084	228,953	487,116	13,015	725,835	3,249
今年度 半期計	5,355,649	2,231,420	3,095,742	28,487	5,163,667	191,982
前年度 半期計	5,503,030	2,339,381	3,134,642	29,007	5,220,701	282,329

- 1 指定管理者の収入を記載する(県の収入である「使用料」は含まない)。  
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見書

- ①年間予算額における収支差額が0でない場合は、その理由を記載する。  
 ②今年度半期計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し詳細に記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。  
 ③今年度半期計における収入額又は支出額が前年度対比30%以上プラス又は、マイナスとなっている場合は、理由を分析し、詳細に記載する。

<意見等>

①～③該当なし

収入状況(年間計画の50%を目安としている)

利用料金収入は予算6,536,241千円に対し、3,095,742千円で達成率は47.4%となっている。福祉施設・病院別内訳を見ると、福祉施設の利用実績は全体で減となっているが、知的部門の当初計画達成等により予算884,692千円に対し、460,252千円で達成率は52.0%となっている。また、2病院の利用実績はともに減となっており、一日平均入院率は両病院で78.2%となっており、予算5,651,549千円に対し、2,635,490千円で達成率も46.6%となっている。

その他収入は、雑収入の増等により、予算52,647千円に対し、達成率54.1%となっている。

支出状況(年間計画の50%を目安としている)

人件費は、予算7,055,756千円(給料・手当等)に対し、3,244,933千円で46.0%の執行率であり、主に退職者不補充や雇用形態の変更(正規→臨時)に努めたことによる減である。

物件費は、予算3,866,933千円に対し、1,869,770千円で48.4%の執行率であり、利用者減に伴い直接処遇費(給食材料費、寝具借上料)、委託料等の節減に努めたことによるものである。

<参考>

本施設について県が支出した(する)修繕費等

1 10万円以上の修繕費等については、県が支出することと基本協定で定めている。施設の状況をより的確に把握するため、県が支出した修繕費等についても参考に記載している。

1 県が支出した施設の修繕費等の金額及び工事内容を記載する。

2 「金額」欄は、半期ごとの総額を記載し、「工事箇所・内容」欄には、主な工事とその金額をカッコ書きで記載する。

	金額	工事箇所・内容
上半期	29,631 千円	七沢学園居住棟屋上防水改修工事 26,639 千円
		神奈川リハ病院東側構内道路補修工事 983 千円
		七沢病院新館 職員厨房給湯管改修工事 973 千円
		七沢病院新館 No.1ボイラー耐火材打替工事 1,036 千円
下半期		
総額		

(今期に行った資本的な収支及び支出の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況		0 千円
支出の状況		0 千円
積立金の状況		0 千円

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。

支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。

積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況(次の表、条件に基づいて個々に記載)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	人	人	
5月	人	人	
6月	人	人	
7月	人	人	
8月	人	人	
9月	人	人	

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計					
今年度下半期計					

利用状況に関する意見等

①今年度上(下)半期計の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由及び対応策を分析し記載する。(特に、理由の記載にあたっては、各月の状況を分析し、わかりやすく具体的に記載する。)

②目標利用者数を下回った場合は、その理由を記載する。

なお、目標利用者数を定めていない場合は、未記入もやむを得ないが、次回以降は記入する。

<意見等>



#### 4 利用状況

##### (1) 七沢学園(児童・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	894 人	807 人	10.8%
5月	883 人	847 人	4.3%
6月	861 人	840 人	2.5%
7月	960 人	857 人	12.0%
8月	1,014 人	878 人	15.5%
9月	956 人	836 人	14.4%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	5,124人	5,568人	5,065人	8.7%	9.9%
今年度下半期計					

##### (2) 七沢学園(児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日、日中一時支援】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	41 人	72 人	△ 43.1%
5月	47 人	71 人	△ 33.8%
6月	138 人	189 人	△ 27.0%
7月	126 人	124 人	1.6%
8月	91 人	187 人	△ 51.3%
9月	74 人	77 人	△ 3.9%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	972人	517人	720人	△ 46.8%	△ 28.2%
今年度下半期計					

##### 利用状況に関する意見等

①は△28.2%となっている。家族短期入所の受入れについて、震災の影響と職員の男女比が変更されたことから、事業の見直しを行っているため、減となっている。  
②は△46.8%となっている。短期入所については利用者の要望も高く、目標を上回っているが、家族短期や家族一日は、これまで県域全体を対象としてきたが、各地域において同様の事業を行っており、対象範囲が近隣に限られてきている状況である。

##### (3) 七沢学園(成人・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	1,741 人	2,200 人	△ 20.9%
5月	1,798 人	2,248 人	△ 20.0%
6月	1,795 人	2,101 人	△ 14.6%
7月	1,757 人	2,139 人	△ 17.9%
8月	1,767 人	2,138 人	△ 17.4%
9月	1,688 人	2,069 人	△ 18.4%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	9,882人	10,546人	12,895人	6.7%	△ 18.2%
今年度下半期計					

##### 利用状況に関する意見等

①の△18.2%は、平成23年4月から、就労移行支援事業の定員削減を行った(22年度定員80人→23年度定員60人)ことによるものである。このため、利用者数は減となっているが、利用率は6.7%の増となっている状況である。

(4) 七沢学園(成人・地域支援【短期入所、日中一時支援】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	42 人	20 人	110.0%
5月	39 人	29 人	34.5%
6月	47 人	39 人	20.5%
7月	88 人	20 人	340.0%
8月	83 人	48 人	72.9%
9月	118 人	11 人	972.7%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	180人	417人	167人	131.7%	149.7%
今年度下半期計					

利用状況に関する意見等

①の149.7%は、入所支援の契約満期を迎えた利用者について、市町村から短期入所による利用継続を依頼され、対応しているためである。

(5) 七沢療育園(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	1,143 人	1,122 人	1.9%
5月	1,178 人	1,185 人	△ 0.6%
6月	1,126 人	1,150 人	△ 2.1%
7月	1,203 人	1,184 人	1.6%
8月	1,229 人	1,172 人	4.9%
9月	1,174 人	1,147 人	2.4%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	6,771人	7,053人	6,960人	4.2%	1.3%
今年度下半期計					

(6) 七沢療育園(地域支援【短期入所、重心親子教室、療育訪問指導】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	33 人	23 人	43.5%
5月	62 人	28 人	121.4%
6月	59 人	32 人	84.4%
7月	53 人	55 人	△ 3.6%
8月	46 人	68 人	△ 32.4%
9月	49 人	53 人	△ 7.5%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	129人	302人	259人	134.1%	16.6%
今年度下半期計					

利用状況に関する意見等

①は16.6%の増となっている。前年度の4月～6月は、感染対策による短期入所の一時制限を行ったことによる増となっている。今年度の7月～9月も、感染対策による短期入所の一時制限を行っており、減となっている。

(7) 七沢更生ライトホーム(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	1,419 人	1,957 人	△ 27.5%
5月	1,400 人	1,941 人	△ 27.9%
6月	1,435 人	1,833 人	△ 21.7%
7月	1,656 人	1,864 人	△ 11.2%
8月	1,713 人	1,794 人	△ 4.5%
9月	1,890 人	1,699 人	11.2%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	11,895人	9,513人	11,088人	△ 20.0%	△ 14.2%
今年度下半期計					

利用状況に関する意見等

①の△14.2%について。入所申込が少なくなっており、その理由は(障害固定の関係上)障害者手帳の発行に時間がかかり、すぐに入所手続きが出来ないこと。また市町村からの受給者証の発行が必要なことなどが考えられ、そのため、入所者数が減となっていた。

入所者の潜在的利用希望はあった(病院の在院期間は限られており、病院側の情報として、さらに訓練を継続してできるケースはあると聞いた。)ことから、医療機関への訪問、福祉事務所や施設の担当者への説明会を開催するなど、利用者の確保に取り組むとともに、利用希望者の入所申請から決定までの期間短縮を図るべく内部で検討した。

その結果、9月からは、利用状況は前年同月比を上回っている。

②の△20.0%について。計画数が1日当り65人のところ、4月から8月までの1日平均実績は49.8人となった。理由と対応策については、上記①に記載した内容と同様である。その結果9月は1日当り63人となり、計画数に近づいている。今後も上記内容を継続し、②の目標達成にむけて取り組んでいく。

(8) 七沢更生ライトホーム(地域支援【短期入所、通所、受託評価】)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	210 人	132 人	59.1%
5月	214 人	140 人	52.9%
6月	194 人	175 人	10.9%
7月	158 人	184 人	△ 14.1%
8月	205 人	240 人	△ 14.6%
9月	149 人	228 人	△ 34.6%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	1,368人	1,130人	1,099人	△ 17.4%	2.8%
今年度下半期計					

利用状況に関する意見等

短期入所については、4月～6月に長期の施設利用希望者がおり、前年度を大きく上回っている。また、前年度の7月～9月に長期の施設利用希望者がいたため、前年度を下回っている。

②の△17.4%について。通所で週5日間通うことを前提としているところ、通所対象者の数はいるものの、週3日間程度の利用がメインとなっており、目標を下回っている状況である。

## (9) 神奈川リハビリテーション病院(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	7,318 人	7,414 人	△ 1.3%
5月	7,381 人	7,286 人	1.3%
6月	7,548 人	6,511 人	15.9%
7月	7,649 人	7,072 人	8.2%
8月	7,661 人	7,391 人	3.7%
9月	7,080 人	7,113 人	△ 0.5%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	46,116人	44,637人	42,787人	△ 3.2%	4.3%
今年度下半期計					

## 利用状況に関する意見等

前年度6月の在院日数は43.8日と、通常月に比べて20日程度短くなっている。  
 前年度6月は、入院患者数が138人と例月に比べて多かったが、退院患者が159人とこれまでになく多かった。病院として退院を促したわけではないが、ベッドコントロールが上手くできなかった。  
 ②の△3.2%について。神奈川リハ病院の7B病棟の高次脳機能障害疾患患者が、前年度は平成22年度4月～9月で7,313人であったが、23年度同期間では6,292人となっている。  
 紹介元病院からのDrtoDrによる紹介件数が減っていることが主な要因となっている。  
 今後、紹介元病院への空床状況の提供や訪問を行い、当該患者の確保に向けて取り組む。

## (10) 神奈川リハビリテーション病院(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	6,808 人	6,976 人	△ 2.4%
5月	6,389 人	6,185 人	3.3%
6月	7,251 人	7,276 人	△ 0.3%
7月	6,685 人	7,110 人	△ 6.0%
8月	6,819 人	6,911 人	△ 1.3%
9月	6,813 人	6,721 人	1.4%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	46,500人	40,765人	41,179人	△ 12.3%	△ 1.0%
今年度下半期計					

## 利用状況に関する意見等

②の△12.3%について。神奈川リハ病院の外来患者には福祉施設からの受診者が含まれており、指定管理初年度の18年度は、外来全体に占める割合が約10%を占めていたが、県障害福祉計画により福祉施設全体の定数が、18年度320人から23年度では200人と△120人減まで見直されている。  
 それに伴い、福祉施設の受診者が22年度では5.7%まで減しているが、この間、目標数(当初予算)の見直しを行ってこなかった為、目標増減率△12.3%となっている。  
 よって、目標数を23年度1日当り310人から24年度では300人へと見直している状況である。

## (11) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	5,613 人	5,997 人	△ 6.4%
5月	5,760 人	6,196 人	△ 7.0%
6月	5,042 人	6,011 人	△ 16.1%
7月	4,766 人	6,091 人	△ 21.8%
8月	4,914 人	6,017 人	△ 18.3%
9月	4,375 人	5,445 人	△ 19.7%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	40,352人	30,470人	35,757人	△ 24.5%	△ 14.8%
今年度下半期計					

## 利用状況に関する意見等

①及び②について。

震災と今夏の猛暑の影響により、外出を控え、日常生活を自宅で静かに過ごすことで、脳卒中の発生が減ったことが影響しており、また、予防医学の普及により患者状況も変化し、障害の発生率が減っていると考えている。

さらに、回復期リハ病棟をもつ病院の増加に伴い、患者の選択肢も広がっていることも要因としてとらえている。

対策として、様々な圏域で行われる脳卒中の勉強会で、連携パスの使い方などの指導を行うが、その機会を使い、病院のアピールを行うことで、利用率の向上及び目標の達成を図る。

(脳卒中の勉強会は、平塚、秦野、伊勢原等の近場をはじめ、県西部や横浜などでも行っている。)

## (12) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	821 人	869 人	△ 5.5%
5月	771 人	774 人	△ 0.4%
6月	809 人	928 人	△ 12.8%
7月	764 人	898 人	△ 14.9%
8月	864 人	873 人	△ 1.0%
9月	815 人	819 人	△ 0.5%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	②目標対比増減率	①前年対比増減率
今年度上半期計	7,500人	4,844人	5,161人	△ 35.4%	△ 6.1%
今年度下半期計					

## 利用状況に関する意見等

②については、病院の交通の便の問題もあり、患者数が伸び悩んでいる。

患者確保対策として、外来で退院患者のフォローアップを行っている。

また、生活改善習慣改善外来において健康診断を行い、個別保健指導の一環として健康診断の二次指導を引き受けることで、医師会の健診部会等への宣伝に努めるなど、利用者の確保に取り組んでいく。

## 5 苦情・要望等の状況

受付件数(うち施設所管課受付分)

(1)七沢学園(児童)

報告月	口頭		文書			合計	
	対面	電話	手紙	メール	アンケート		
4月	0	0	0	0	0	(0)	0
5月	0	0	0	0	0	(0)	0
6月	0	0	0	0	0	(0)	0
7月	0	0	0	0	0	(0)	0
8月	0	0	0	0	0	(0)	0
9月	0	0	0	0	0	(0)	0
合計	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0

## (2)七沢学園(成人)

報告月	口頭			文書		合計	
	対面	電話	手紙	メール	アンケート		
4月	0	0	0	0	0	(0)	0
5月	0	0	0	0	0	(0)	0
6月	1	0	0	0	0	(0)	1
7月	3	0	0	0	0	(0)	3
8月	1	0	0	0	0	(0)	1
9月	0	0	0	0	0	(0)	0
合計	(0) 5	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 5

## (3)七沢療育園

報告月	口頭			文書		合計	
	対面	電話	手紙	メール	アンケート		
4月	0	0	0	0	0	(0)	0
5月	0	0	0	0	0	(0)	0
6月	1	0	0	0	0	(0)	1
7月	0	0	0	0	0	(0)	0
8月	1	0	0	0	0	(0)	1
9月	1	0	0	0	0	(0)	1
合計	(0) 3	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 3

## (4)七沢更生ライトホーム

報告月	口頭			文書		合計	
	対面	電話	手紙	メール	アンケート		
4月	0	0	0	0	0	(0)	0
5月	0	0	0	0	0	(0)	0
6月	0	1	0	0	0	(0)	1
7月	0	0	0	0	0	(0)	0
8月	0	0	0	0	0	(0)	0
9月	0	0	0	0	0	(0)	0
合計	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1

## (5)神奈川リハビリテーション病院

報告月	口頭			文書		合計	
	対面	電話	手紙	メール	アンケート		
4月	4	0	5	0	0	(0)	9
5月	2	0	3	0	0	(0)	5
6月	6	1	4	1	0	(0)	12
7月	2	2	3	0	0	(0)	7
8月	6	2	1	0	0	(0)	9
9月	3	1	3	0	0	(0)	7
合計	(0) 23	(0) 6	(0) 19	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 49

## (6)七沢リハビリテーション病院脳血管センター

報告月	口頭			文書		合計	
	対面	電話	手紙	メール	アンケート		
4月	3	0	3	0	0	(0)	6
5月	0	0	2	0	0	(0)	2
6月	1	0	2	0	0	(0)	3
7月	0	1	1	0	0	(0)	2
8月	0	0	4	0	0	(0)	4
9月	0	0	6	0	0	(0)	6
合計	(0) 4	(0) 1	(0) 18	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 23

## 6 特筆すべき苦情・要望及び対応状況

（類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなど、特に注意すべき場合に記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備	震災発生に伴う節電について、国が掲げている節電目標値に向けて、更なる節電に努めるべきである。	震災発生後の3月12日から、照明の間引きやエレベータの時間制限運転、職員執務場所やその近辺の廊下及び昼休みの消灯などを実施した。 その結果、3月は前年比10.1%減、4月は12.9%減、6月には神奈川リハエリアで17.57%、七沢エリアで17.99%の節電となった。経済産業省から示された節電目標の15%削減目標が達成された。今後も利用者に支障のない範囲で、節電の徹底を図る。
職員対応	看護師が親切でとても助かっている。特に○さんには、具合の悪いときに親切に対応していただいた。感謝している。	感謝の言葉を、所属長及び当該病棟の責任者に伝えた。
事業内容	一般的な病院では、意見を聞くことで(意見を聞いているという姿勢を)利用者に見せているところがあるが、七沢病院はその意見をもとに直ちに改善していることに心をうたれる。今後も継続してほしい。	病院の取り組みへの評価に、感謝の意を伝えた。

## 7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
月 日	なし

## 8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日	なし		
月 日			

## 9 上(下)半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指 定  
管 理 者

福祉施設の利用者数については、七沢学園の就労移行支援事業が、県の障害福祉計画に基づき、20人の地域移行を行い、定員が22年度の80人に対して23年度から60人となっており、このため入所者数は減となっている。(入所率は増となっている。)

病院については、七沢病院は前年度を下回る厳しい状況であるが、地域の各地で行われる脳卒中勉強会の機会を利用して七沢病院のアピールを行うとともに、照会元病院への定期的な訪問を行うことで、申込件数の増加に向け努力していく。さらに、外部医療機関等に向けてベッドの空き情報などの情報を発信し、回復を図る。

一方で事業団(センター)全体としては、平成23年3月に策定した新経営計画改訂計画(R21)変更実施計画に基づき、具体的な実績や数値などの中期目標の達成に向けて、より専門性を高めつつ、同時に効率性を高めコスト削減を図るという、相反する事項のバランスを図りながら経営に取り組む。

施 設  
所 管 課

(社福)神奈川県総合リハビリテーション事業団は、指定管理業務を効果的に実施するとともに、法人の効率的な運営に向け、平成23年3月に策定した新経営計画改訂計画(R21)変更実施計画に基づき、社会環境の変化や新たな課題に柔軟に対応した取組みを進めていることから、この計画が着実に推進されるよう、今後も指導を継続する。

また、七沢リハ病院の病床利用率が昨年度実績を下回っていることから、利用率向上に向け今後とも指導を継続していく。